

弟子としての道

マルコによる福音書九章30〜37節

いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい。(35)

弟子たちはカファルナウムに向かう途中、誰が一番偉いかと言い争っていました。互いに自分こそ主の一番弟子だと主張していたのです。無きに等しい者たちがただ神の恵みによって救われたはずなのに、いつしかその信仰を誇るようになり、互いに優劣を競い、人よりも高く上ろうとする思いに囚われていました。このとき主イエスは、一番を望んではならないとは言われませんでした。一番になろうとすることが問題なのではなく、この世の価値観をもって何が一番かを測ろうとすることが問題なのです。主の弟子たちが歩むべき道は、キリストのように全ての人に仕えようと自らをひたすら低くするところにあります。その謙遜は、一番になるための手段ではありません。謙遜はただ謙ることだけを目的としません。そのとき、思いもかけず主イエスが「よくやった」と認めてくださるのです。